

---

# 最速な殺人鬼の旅人は堅物

ハル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最速な殺人鬼の旅人は堅物

### 【Nコード】

N4377V

### 【作者名】

ハル

### 【あらすじ】

とある一般人の委員長タイプの堅物が、神に殺されて能力をつけられ転生というお約束を果たした。ただそれだけの話

彼は今生にて大切な人を守ることを誓った。それは自らのために傷を負った、愛おしい女性。

そんな彼が、この魔法と陰謀の渦巻く世界にて彼女を守り抜く。ただ、それだけのお話――

## プロローグ（前書き）

はい、どうもハルです

懲りずにネギま2作目やっちゃいました

おそらく、いや確実に拙い文章ではありますが、暇つぶしにでもなれば幸いです。

では……

## プロローグ

?? ……ん? ?ここは……

??とりあえず右を見ます。壁ですね

??続いて左を見ます。襖ですね

??そして前方を見ます。天井がありますね

??最後に一言。

「……転生しちゃったんですね、私」

??始めまして、私の名前は神谷裕かみやひろしと言います。なんだかツツコミ

に定評がありそうな名前な気がしますますが気にしません。

??あ、前世と同じ名前ですね。そこは神様に感謝します。あの屑も不可思議分の1くらいは私の役に立ちました。

??そして、先ほども言いましたが私はどうやら屑神の手により転生というものを果たしてしまったようです。

ちなみに私の意識が芽生えたのは5歳のころです。当たり前ですね、幼児に大人の記憶や知能などを与えればどうなるかなど明白ですし、良くて廃人ですかね？

??その屑いわく、「間違えて殺しちゃった　？好きな世界に転生+能力つけるから許してちょ」とのこと。殺意が湧いた私に非はありません。

??どうやら最近漫画やらアニメなどの能力を持って、そういった世界に行くのが流行っているようです。まあ私は興味ありませんが、強いて言うならジャンプを読んでいたくらいでしょうか。

??私はそういったものが分からないのでそちらに任せる旨を伝えたところ、何やら勘違いをしたようで「僕は感動したよ！　?ご褒美にチートにしてあげるね」とのこと。

??チート、というものはよくわかりませんが言葉通りの意味なら「ズル」「インチキ」というものだったはずです。つまりは人生に置いて先んじるものがある、いいですね。それは楽そうです

??……おっと、長々と話し込んでしまいましたかね。向こうの方で彼女が呼んでいます。これ以上待たせるのもなんなので行くつもりでしょう。

「もう！　？私が呼んだらすぐに来て言うてるやる！　？ひろくんはすぐにポーツとするんやから……」

「すみませんね、亜子。どうやら私は思想家の才能があるようです。すぐに妄想に耽ってしまふようなのです」

「はあ……もうええわ。それよりひろくん！　？はよう学校行かな遅刻してまう！　？走ろ！」

??そういつて彼女は手を差し出す。私に向けて満面の笑みを携えながら。

??私はそれにええ、と答えて彼女の手を握る。私の幼馴染である彼女、和泉亜子に。

??これが私の第二の人生。どうせ1度は失った命なのですから、誰かのために使うのも一興ですかね。

??そうしてしばらく走った後に着いた場所は麻帆良学園まほろと呼ばれる学園都市。その広大さは東京ドーム何個分なのでしょうか、それほどに広いものです。

??こんなものは前世には無かったので、ここは私のいた世界とは別世界。もしくは何かの漫画などの世界なのだろうと当てをつけた。そもそもこの学園長は妖怪なのだ、漫画の世界なのは確定だろう。

『儂、妖怪ちやうよー!ー!』

???ん？　？何やら今聞こえたような……気のせいですかね。

「はあ……はあ……ひ、ひろくん。相変わらず、はあ……は、速いなあ」

「ああすみません亜子。スピードの調整を間違えてしまいましたね、大丈夫ですか？」

「な、何年、はあ……幼馴染やつとると……思っとなのや！　？ウチは、もう慣れ……たで！」

??そうですか、と私は微笑み亜子の手を再び握り締める。すると亜子の方からも握り返してくれ、熱を持って赤くなった顔を笑いかけてくれる。

??癒されますね……ああ、そういえば。私の速さも屑から与えられてしまった能力の1つで……ええと、何と言いましたか。

??ラジカル・グッドスピンでしたか？　？確か速さを信条とした男の能力だとか。車などに使うものようですが私自身にも使用できるようです。200km以上出せるようなので調節が難しいんですよね……。

「ひろくん！」

「え？　？ああすみません。また考え事をしてしまいましたね。何か言いましたか亜子？」

「だーかーらー！　？はよう学校行かな遅刻してまうって言ったん  
のや！　？さつきも言ったで！」

「？？亜子がそういうと同時に地獄の開幕を告げるゴング……そう、  
予鈴が鳴りました。これは、まずいですね。」

「亜子、しっかりと掴まっててください」

「え……つて、ひゃあああああ！？　？は、速い……！！！」

「？？少し本気を出させてもらいます。前世の頃から無遅刻無欠席を  
貫いた私が遅刻など許せません。」

「ちょ、ひろ、くん！　？まつ、速っ………うぶ」

「？？全速力で走り、何とか遅刻は免れたのですが亜子は保健室へと  
行ってしまいました。体調でも優れないのでしょうか？　？心配で

५.

## プロローグ（後書き）

神谷裕（笑）

彼は自分の中での委員長・堅物キャラのイメージです

ちなみに今は小学校低学年です、書くの忘れてた……

あ、あと神谷くんの微チートはあと2種類あります

ラディカル・グッドスピードってチートなのかどうかわかりにくい  
ですよね……

## 第1話「私の友達です」(前書き)

今回は……クロスオーバーしちゃいました

ただこの作品は「何故か」知名度低いんですよ、とても面白いのに  
みなさんデュラララばかり読んでませんか？      こちらだって同じ  
イラストレーターですよ？

アニメ化だってされました、OPはsavage geniusで  
したし

## 第1話「私の友達です」

??あれから恙つじがな無くお昼になりました。

??ここは学食や屋台などがとてもたくさん揃っているのでバリエーションがとても豊富です。値段も良心的で味も良いので学生にはとても優しくできています。

??まあ私はまだ小学2年なのですが。一般的には弁当などを作ってもらいますよね、かく言う私も弁当です。

??他と違うのは私の場合は自分で作った弁当だ、ということでしょうか。理由としては両親ともに既に存命ではないからです。

??……ああ、別にしんみりした空気になる必要はないですよ？  
?私だって悲しいですけど、他人に同情されるようなことでもないです。私の気持ちなんて分かりもしないくせに。

??悲しいことがあれば「とりあえず同情」みたいなスタンスの人が多くても嫌ですね。そんなことするくらいなら最初から気にしなければいいのです。

??と、お腹も空いてきましたし食べるとしましうか。ああちなみに亜子とは違う学校ですよ？ ？学年などは同じで校舎も近いから、共同授業などでたまに会いますがね。

「お〜い、裕。腹減ったしメシ食べようぜ〜」

「ええ、わかりました。少し待ってください秋名<sup>あきな</sup>」

??声をかけてきたのは黒い短髪、中肉中背、特筆するところも無いような少年でしょうか。外見的特徴は。

??彼は比泉秋名<sup>ひいずみ あきな</sup>、私の親友と呼べる1人ですね。私がよく話すメソンのリーダーのようなものです。まあ影のリーダーが別にいます<sup>が</sup>。

「ん？ ？何よ裕、あたしのことじつと見て」

??宝蘭<sup>ほうらん</sup>という店の、彼女のお気に入りであるラーメンをすすりながらこちらを見るつり目の少女。名は檜桜<sup>ひざくら</sup>ヒメ、黒くツヤのある髪をポニーテールにした勝気な少女です。

??先ほども述べました、私たちのグループの影のリーダーです。

カリスマが凄いです。まるで擬音で「霸ッ！！」と聞こえそうな気がしてきます。

「あらら、裕はヒメのことが好きなのかな？」

「冗談は存在だけにしてください、ことは」

「あん、ひどいなあ」

??ちつともそんな素振りを見せない笑顔の少女。彼女は五十音いそねことは。茶髪を左右で縛ってあるのですが、いまいち髪型の名がわかりません。メガネをかけていますが、本人いわく「伊達」とのこと。

??普段はおちゃらけた態度に柔らかな物腰ですが、一度怒ると手がつけられません。もちろん私を除いて……ああヒメも除きます。ヒメは私と対等にやりあえるスペックなので私と同じ転生者なので、とすら思っています。

「裕くん。そんなこと言ったらダメだよ」

「すみませんねアオ、2秒で終わらせますから」

「お掃除が大変だから、綺麗にね」

??何気にダークなおっしやるのは水色の髪に猫耳帽子を被っている少女。名は七海アオ、髪形は何なんでしょうね。本当にわかりません。

??普段は彼女もことは寄りの性格ですが、このような場合は私の側についてくれるので好感が持てます。時に私をも上回る知略を見せます。漁夫の利を得るタイプだと私の直感が警報を鳴らしていたのは良い思い出です。

「裕、速くしろよ」

「はっ！　？あ、あたしのラーメンはあげないわよ！」

「関節キスか。マニアックだね、裕」

「お弁当、お弁当」

??さて、ご飯を食ましようか……。

『ごちそうさまでした』

??全員で食べ終わった後に手を合わせます、挨拶は大事ですから。ちなみに私がやらせています、挨拶をバカにする者は私が鉄拳制裁です。

??昔にクラスの男子が私たちの様子を見て「ガキみてー！」と言った時に、私は怒のオーラを放ってしまったようです。あの時は大変でしたね……

??なんせ秋名たちのグループ以外の皆が泣き出してしまいましたし。しかも私のオーラは無差別だったのか、周りのクラスからも泣き声が聞こえ出す始末でした。先生方も腰が抜けてしまい顔面蒼白でしたしね……。



??そのまま教室の後ろの壁へと頭が突き刺さりグタツとする桜井。そこへ桜井の幼馴染である美月さんが黒いオーラで近づくので後は心配いらなんでしょう。

「ひろくん、はよう帰るで！　今日はタイムサービスや！」

??あ、ちなみに私は亜子の家でご飯を頂いています。あちらの「両親も快く承諾してくれました。優しいですね……」。

「ああそう言えば……では、少し急ぎ」あんま急いだらあかん！」わかりました。では亜子に合わせたスピードで速く行きましょう」

??という訳でゆっくりと30kmほどで走ったのですが……やはり亜子は気分が優れないようです。朝からですが、何かあったのでしょうか？

??ちなみに晩御飯はトンカツでした。……私のを3切れほど持っていたかもしれませんが。何故？

## 第1話「私の友達です」(後書き)

長いなあ、まだ1日すら終わってませんよ？

まあ意識が宿ってから2年くらい経ってますけどね

あ、ちなみにラディカル・グッドスピードの発動時の靴はみなさん認識してます。しかし認識阻害などで「不思議だなー」くらいにしか思いません

便利ですね認識阻害。あ、速くもお気に入りに入り6件、感想1件と嬉しい限りです

出来れば感想をくださるとモチベーションが上がりますから欲しいところです

では、次回は明日でしょうかね？ お楽しみに

## 第2話「私の日常です」(前書き)

とりあえず今のところ毎日更新です

昼頃はたぶん見る人少ないんで、夜の7時に更新にしましょうかね

……

なんかオススメの時間帯とかあれば教えてください

## 第2話「私の日常です」

???

??今日は共同授業のようです。よくある他校との交流ですね。この学園の場合は学校同士の繋がりが深いので良いのかもしれません。

??嬉しい事に亜子のいる学校でした、ちなみにお互いの学校の同学年全員で行われるので人数が凄まじいです。1学年A～Z組まであるって非常識過ぎます、敷地に問題はないですが。

??それで私のクラスは……定番とも言える写生大会のようですね。私は絵は得意です、写実主義なのです。良い絵というよりも上手な絵向きですね。

??おや、亜子を発見しました。どうやらあちらも私に気づいたようで手を振ってくれています。私もそれに返し、すぐに亜子の方へ行かせてもらおうとしましょう。

「亜子……と、五月ですか。お久しぶりです」

「お久しぶりです、裕さん」

「見てえな、ひろくん！　？私の絵、上手やる」

？？亜子が見せて来たのは子供相応の不恰好な絵でしたが、私にはとても微笑ましく映りますね。上手ですよ、と頭を撫でながら褒めれば笑顔になってくれますし。

？？そしてもう1人の少女、少しふくよかでコアラを思わせる愛玩系です。名は四葉五月、家が割と近いのでたまに料理などを教えてもらうくらいの仲ですね。

？？知り合ったのは亜子経由でしたか。去年あんなことがあったので、私が家事を1人でやらなければいけませんでしたし。もちろん亜子も手伝うと言ってくれましたが、私はそれをやんわりと断りました。

？？理由としましてはさすがに亜子に頼りすぎだと思ったからで。これでも中身は20超えています、それが小学生の世話になるなんて私のプライドが許せません。

？？そうしたら亜子がクラスで料理上手な子を連れてきて、それが五月だったのです。最初はどうかと思いましたが、これがまた凄かったですね。プロ顔負けなレベルの腕前でしたので私も同意しました。

「裕さんはもう描きましたか？」

「ええ、ほら」

?? 私が描いたのは、普通に校舎と中庭とそこにいる人々ですね。自画自賛じゃありませんが中々に上手く描けました。

「五月の方はいかがですか？」

「あ、私はまだなんです……あと少しなんですけど」

?? ふと横から覗き見ましたが、こちらもまた上手です。五月はおそらく感受性が高いのでしょうね。作風を表すなら印象派と言った感じの抽象的な絵でした。私にはとても真似できません。

?

そのまま適当に談笑していると授業の終了を告げる教師の声。楽しい時はあっという間に過ぎてしまいますね、残念です。

?? ちなみに私の絵は銅賞を取りました、つまり3位ですね。五月が2位。1位は眼鏡をかけたアホ毛の少女でした。異様にテンション高いですね……なんだか風紀を乱す気配がします。

??

??………亜子ですか？ ええそうですね。強いて言うなら努力した者に必ず与えられる賞を頂いてましたよ？ ？本人は不満そうでしたが。

?? 3時間目が始まります、教科は理科です。担当の教師は長戸ユキ先生です。眼鏡をかけた小さい先生ですね。口癖は、眼鏡を抑えてからの「ワロス」です。意味はよくわかりませんが。趣味は読書、特技はパソコンだそうです。

「アインシュタインは間違っている。確かにエネルギー＝質量×光速の二乗、しかし他の17の次元においては違う。計著な例としては」

?? そう言っ て黒板に私たちには理解出来ない数式や文字を並べていく。よくユキ先生はこのようになります、正直私たちにはそれがあっているのかどうかわかりませんが。というか小学生にする話ではないと思うのは私だけでしょうか。

??

??しかし、これが本当にあっつていけば世の中がひっくり返りますよね。麻帆良だから、で済ませられそうですけど。この学園の場合。

?

??4時限目は体育です。担当の教師は松岡さん、とても熱血な方ですね。ほとんどテンションの高い状態を維持していて、普通の状態を見れば幸せになれるとまで言われています。

「もっと熱くなれよ！　?どうしてそこで諦めるんだ!?　?俺だって大変だけど教師やってる！　?世間の荒波に揉まれながらも、お前たちのために頑張ってる！　?だから諦めんな！　?まだまだやれる！　?お前たちには可能性がある！」

??男子生徒はこれでテンションがかなり上がります、女子は体育会系だけ上がりますね。私だって少しは上がります、自重はしますが。

??ちなみに松岡先生、独身らしいです。暑苦しいからだと陰では言われていますが、何故か生徒からの人気は高い様子。ファンクラブなどもあるとか、凄いですね。幼児性愛者にならなければいいのですが。

??そして後はいつものように秋名たちとお昼を食べ、桜井を埋め、亜子と帰る。

??これが、私の日常です。

## 第2話「私の日常です」(後書き)

今回も微妙にクロスオーバーですね。おそらく今後は出ないでしょうが

あ、いちおう伏線っぽい張ってありますけど気づきますかね？

前話とかにもあるんですけど

それと微チートの残りはまだ先になると思います。思い返してみれば、適当に選んだ3つの微チートが意外とバランスよくて、お互いの弱点を補ってたりするんですよ……

残りの微チートが気になるのなら、聞いてくれればメッセージなどでお答えしますよ？ 感想などでネタバレをしなければですが

### 第3話「私と彼女の初邂逅です」（前書き）

投稿し、何故かふたたび昼です。そしてタイトル変えました

ひらがなのところを読むと「なのは」に……偶然ですよ？ 本  
当  
です

今回はあの人が登場します、おかしいな……出すつもりはなかつた  
のに

今夜も書けたら投稿しますね

### 第3話「私と彼女の初邂逅です」

???ーねえお父さん。どうして僕のお母さんは出て行ったの?ー

???ーそれはね、お父さんがだらしないからだよー

???ーお父さんはだらしないの?ー

???ーははっ。うん、お父さんは自分で何かをするのが苦手なんだー

???ーそうなんだー

???ーねえお母さんー

???ーあ? ?何よ、うるさいわねー

???ーお母さんは、なんで出て行ったの?ー

???ーはっ! ?あの男があまりにもつまんないからよー

???ーそっなんだー

「はあ。……………何故今さら前世のことなど思い出したのでしょ」

??今朝の目覚めは最悪です。私の嫌いな人物ベスト3に入る2人のことを思い出せばそうなりますとも。ええ当然です、そして必然です。ちなみに1位は屑神です。

??あ、今生の2人は普通の人でお互いの仲も良好でした。その点も屑神に感謝です。すでに他界してますので、あまり関係のないことですが。

??前世ではとても嫌いでしたね……。片や色欲狂いで娼婦の真似事と言わんばかりの女性、片や逃げられるのが怖くて何もせず傍観を決め込んだ男性ですから。

??そのせいで私のこの性格が出来上がりましたからね、2つの意味で生みの親です。

「……………やめましょう。考えるだけで苛立ちます」

??と、丁度良くそのタイミングでピンポンと小気味良いインターホンの音が私しかいない家に鳴り響く。おそらく亜子でしょうね。

???そう思い玄関まで行くと、何故か既にドアを開けた亜子が。おや? ?鍵を閉め忘れましたかね。

「ひろくん、朝ごはん出来たから食べに来ててお母さんが言ってるで〜」

「あ、はい。……亜子、どうやってドアを開けたんですか？」

「??もし本当に閉め忘れなら私のミスなのですが。仮に亜子に施錠スキルが備わっていたらと思うと厄介なので聞いておきます、まあ亜子なので悪用するとは思えません……」

「普通に鍵で開けたで？　ほら、こないだひろくんが合鍵渡してくれたじゃん。もう忘れたんか？」

「??……………ああ、そう言えば。失念していましたね。これもあの夢のせいでしょうか、頭が働かないだなんて。どれだけ私に迷惑をかければ気が済むんでしょうか、前世のあの2人は。」

「??疑問を解消した私は急いで制服へと着替え、亜子の家で朝食をご馳走になった。」

「??その後、1度家へと戻りカバンに作り置きしておいた弁当を詰め、亜子と共に学校へ向かいました。」

?? 授業や昼食も特に滞りなく進み、そのまま放課後となりました。亜子の学校は本日は半日授業なので既に帰宅済みだと思います。亜子だって私を何時間も待つてくれるほど優しくはありませんね。

?? …… おや? ?あそこに見えるのは迷子、でしょうか。長く美しい金髪の人形のような少女が1人で辺りを見回しているなど物騒です、ここは私ご家族の元へ連れて行ってあげるべきでしょう。

?? そうと決まれば即行動、思い立ったが吉日ですね。そしてそのまま私はその少女の元へと走って行きました。

?  
?  
?  
?  
?  
?  
?

?? ああ鬱陶しい。

?? 少し私が外へ出るだけでも、そこから監視の視線を感じる。中には遠見の魔法などで見ているものもいるようだが変わらん。

?? 鬱陶しいことこの上ない。というか貴様らは暇だな…… 四六時中私を監視していて、きちんと教師としての責務を果たしているのか？ 「魔法使い」が本業で「教師」は副業だとも言うつもりか？

?? 本当に鬱陶しい……む??

?? 私へと近付く未知の気配が1つ。そちらへ目を向けると、おそらくは初等部であろう少年がこちらへと走ってきていた。

?? 誰だ？ ?さすがに麻帆良と言えど初等部の魔法生徒などいな  
いだろうし、かといって私にあのようなガキの知り合いなどおらん。

?? 考えている間にすでに目前へと迫っていた少年に、私はほんの  
少しだけ警戒しながら待つ。何故ならその少年からはほんの少し強  
者の気配を感じたからだ。

?? だが、おかしい。確かに強者の気配なのだが…… 歩き方や物腰

などがどうも素人臭い。そう、まるで吸血鬼になりたての頃の私のように、無理やり能力を付与されたような感じだ。

??そしてその少年は私の眼を見据え、口を開く。

「お嬢さん、迷子ですね？　?ご家族の方はどちらにいらっしゃるかわかりますか？」

??.....は？

### 第3話「私と彼女の初邂逅です」(後書き)

なんで出したか、ですか？

作者がバトルを書きたくなっただからです(キリッ)

この頃はまだ3回目の学生やってる頃ですかね、ですから従者は初代しかいません。家にいますし

あとで別荘でバトルを………ふふふ(キモい)

その時に残りの2つの微チート明かしますね。というか残り2つはセツトにしないとキツイと思いますし

ではでは

#### 第4話「私の油断です」(前書き)

更新です、30分くらいで書けるもんですね。意外と

急いだったので変なところがあるかもしれませんが、誤字・脱字の指摘などお待ちしております。

前回の金髪少女の正体が明らかになったって、皆さんわかってますよねえ

#### 第4話「私の油断です」

?? 現在、目の前には呆然とした表情でこちらを見つめている少女がいます。ええ先ほどの迷子さんです。

?? ……なるべく優しく声をかけたつもりだったのですが、驚かせてしまったでしょうか？ ああまずは緊張を解してあげないと警戒されてしまいますね。

「緊張しなくてもいいですよお嬢さん。あ、飴がありますけどどうでしょう?」

「は? ?あ、ああ……おお?」

??戸惑いながらも受け取ってくれました。うんうん、まだ多少の緊張は見られますがこの調子ですね。頑張って彼女をご家族の元へ帰さねば……

「あ、私は神谷裕と言います。良ければお嬢さんのお名前を教えてくださいえますか? ?あ、言いたくないなら言わなくてもいいですよ」

「え……エヴァンジェリン」

??ふむ、エヴァンジェリンさんですか。ならば

「エヴァ、と呼んでもいいですかね？　ああ馴れ馴れしかったでしようか。すみませんお嬢さん」

??そう言つと、目の前の少女はハツとしたようで。そしてみるみる不機嫌な表情へと変わっていった……何故でしょう。私がかしたのでしょうか？

「おい貴様、口の利き方に気を付ける。礼儀というものを知らんのか？」

??ああこれは……背伸びをしたがるお年頃ですものね、わかりますよ。恥ずかしかったといったところでしょうか？

??しかしまた偉く似合っていますね、よほど練習したんでしょう。うんうん、微笑ましいです。

「ああすみませんね。それでお嬢さん、ご家族の方はどちらにいらつしやるかわかりますか？　もし良ければ私も一緒にしますよ」

「……………その、『お嬢さん』というのをやめる。不愉快だ」

??ギロリと睨みつけられました。……………なんだか鳥肌が、風邪で  
しょうか？ ?帰ったら薬を飲みますか。

「いえ、ですがどう見てもお嬢さんで「こっ見えても私は中学生だ、  
貴様よりは年上だ」……………は？ ?ああ失礼しました……………え？」

??年上、ですか？ ?この少女が？ ?ああでもとても小柄なの  
はまあ、個人個人で成長速度などあるでしょうし……………そうですね。  
今回は完全に私の過失でした。

??なので謝ろうと思った瞬間、私の視界は空で埋めつくされまし  
た。

(……………はい？ ?つて痛い！)

??しばらく呆気を取られて空を眺めていたら、背中からの大きな  
痛みで正気に戻る。今、何が起きた？ ?私はなぜ地面に転がって  
いる？ ?なぜなぜなぜ

??痛みに呻きつつ、チラリと少女の方を見やると腕を下げる状態  
でこちらを見ながら思案しているようでした。

?? ..... 今のは彼女が？

?  
?  
?  
?  
?  
?  
?

?? 無礼者。

?? それがそのガキの第一印象だ。

?? 初対面の私を「お嬢さん」などと呼び、果ては迷子などと勘違いした。

??まったく無礼なやつだ………どれ、私も悪の魔法使いだ。子供には恐れられる存在なのだ、だから少し威嚇のために追い払うとしよう。

??何、監視の目もある。間違いは起きないだろう、むろん殺人的な意味でな。

??とりあえず顎を狙っての掌底で打ち上げるとしよう………？

??何だ、今のは。

??打ち上がった。それはいい。

??なす術もなく吹き飛んだ。それもいい。

??手心を加えたから命に別状はないだろう、呻いているが。それもいいだろう。

??しかし今の攻撃には手応えがあった、いやありすぎた。

??まるで何百キロという金属を殴ったかのような感触、それはおよそ目の前で呻いているガキの体躯とは不釣り合いなもの。

??確かに人体において骨や筋肉などは硬いものだが、それは重量とは比例しない。このガキを打ち上げるのに、いくら力を封印されている状態とはいえ何の苦もないはずだ。

??それなのに、このガキを打ち上げるためには私が少しとはいえ力まなければいけない程だった。

??フッフ……面白い！？

??丁度退屈していたところだ！　？このガキが魔法関係者なのか、はたまた私と同じようなヤツかは。またはただの一般人なのかは知らんが、暇つぶしにはなりそうだ……！

??ククク……覚悟しろよ？　？この『闇の福音』ダーク・エヴァンジェルに目を付けられたのだ。

？？――逃れられると思っちなよ？――

#### 第4話「私の油断です」（後書き）

と、今更ですがカレーパンさん、竜王&amp;・竜姫さん、杉やんさん、竜華零さん。感想ありがとうございます

早くもPV5000行きましたー、どんどんぱぱぱ

お気に入りも20件突破と嬉しい限り。

今回はエヴァ様が微チートの片鱗に触れました。まあどうせバトルした時に明かされるんですが

ではでは、感想をくれると作者は犬のように喜びます。では

## 第5話「私は招かれたようです」（前書き）

今回も何とか毎日更新を果たせました……………ふう

それにしても毎回1700〜2000文字程度ですけど、良いのでしょうか？

何かのアンケートで4000文字くらいがちょうど良いと見た覚えが……………

あ、PV1万突破。感想10件、お気に入り30件。

これもひとえに読者の皆様のお陰。ありがとうございます

これからもヨロシクおねがいしますね、では本編をどうぞ

## 第5話「私は招かれたようです」

「……………痛いすね」

「?? 痛いす。ええそれはとても。もうそこまで取り乱すようなことはありませんが。人間とは凄いですね、どんな環境にも適応してしまうのですから。」

「?? 既にいつものようにとはいかないまでも、多少は冷静な思考が行えます。まあ打ち付けられた時もそこまで取り乱したわけではありませんが……………それもこれも武器がクッションとなってくれたからで。」

「?? まあ金属なのでむしろ余計に倍増した気もしなくはないですが、あ、武器のことが気になりますか? ? これも不本意ながら屑神から頂いてしまった能力ですな。」

「?? 『暗器使い』としての能力で、身体中のありとあらゆる箇所に確実に色々と無視した方法で収納出来るというものです。確か殺人が大好きだけど人間が好きだから殺したくない人の能力だとか。」

「?? そのの付属で『殺す方法』『殺さない方法』『殺されない方法』にも精通してしまいました。後者の2つはまだ使えるかもしれませ

んが、最初のは……この平和な日本のどこで、殺人を犯す機会があるというのでしょうか。

??しかもこの武器、重いんですよ。いや当たり前なのですが。屑神の仕様だと思つのですが、常に暗器が完全装備された状態なのです。失つたり破損した物もすぐに完全な状態で補充され、元の物は消えてしまいます。

??その弱点もラディカル・グッドスピード（やつと名前を思い出しました）のお陰でなんとか出来てますが。というかあれだけの武器を持ちながら、ラディカル・グッドスピード無しで普通に生活出来るこの能力が恐ろしいのですが。

「ふむ……少なからず私も力を籠めたのだがな。おいガキ、貴様は関係者か？」

??関係者……ですか？ ？どの関係でしょう。学校のか、クラス委員のか、はたまた何か別ののでしょうか。ああ目の前の少女は中学生でしたね、私とは接点がないはずですからそれは無いでしょうね。

「すみませんがエヴァンジェリン先輩、何のお話でしょうか？ 私には分かりかねるのですが……」

??私がそう告げると、エヴァンジェリン先輩（これからこう呼びましょう）は少し俯いて思案をし、私の方を見ました。

「貴様……………魔法に「エヴァっ！　？何をしてるんだ！？」チツ……………」

??エヴァンジェリン先輩の話に割り込んで来たのは、おそらく20かそこらの男性。スーツを着ているので教員でしょうか。その人が私たちの元へと走ってきた。

「タカミチか……………何のようだ？」

??エヴァンジェリン先輩は己の不機嫌さを隠そうともせず言い放つ。タカミチと呼ばれた男性も負けじと睨み返しながら語気を強めて言い返しています。そこに私の入り込む余地はありませんでした。

??そして2人の会話を聞いているうちに聞き取れた単語。「魔法」「秘匿」「記憶の消去」「勝手な行動」など……………。ああやはりここは漫画か何かの世界なのですね。もしかしたら私が知らないだけで、魔法はあったのかもしれませんが。

??そしてしばらく語り合った後に、男性の方は私の存在を忘れていたのか。こちらをハツとした顔で見、私へと向き直る。

「ああすまないね、僕の名前は高畑・T・タカミチ。麻帆良女子中等部で教師をやってる者だよ」

「??と言ってもわからないかな、等と言いなからハハハと嘘くさい笑みをする。まあそれは外見をどう見ても子供で、実際に初等部生なのでそれからこんな話をしてしまいますよね。私だってそうしてしまいかねません。」

「いえ、大丈夫ですよ高畑先生。理解は出来ています。申し遅れましたが私は神谷裕と言います。初等部2年、クラス委員をやっております。以後、お見知りおきを」

「??私が挨拶をすると、高畑先生は驚愕の表情を浮かべます。そうですよね、やはり。普通はここまでしっかりした小学生なんて……  
…いや、ヒメたちがいますか。とはいえ、いくら麻帆良でもこれは中々お目にかかれませんかよね。」

「??するとエヴァンジェリン先輩が高畑先生に何やら目配せーアアイコンタクトでしょうかーをし、妖艶な微笑みを浮かべる。外見とはおよそ不釣り合いです、何故だか似合っています。」

「??すると高畑先生は何やらため息を吐き、再び私へと口を開く。」

「すまないけど神谷くん。学園長室まで来てもらえるかな？」

?? ..... 妖怪ぬらりひよんの巣窟？

## 第5話「私は招かれたようです」（後書き）

カレーパンさん、竜華麗さん、スモークさん。感想ありがとうございます

今回はタカミチさんのご登場で……確か20年前の大戦の時が10歳くらいの少年でしたよね  
ならば15年前のエヴァ様封印の時くらいには少し年上か同い年くらいのはず

そしてNGOにてその後活躍しているのでないかとも思いましたが……アスナがこの頃に麻帆良に来てるはずですよ

その頃は確かタカミチさんが保護者として過ごしていたはず、なのでこちらにいると思います

その間に教師になったと考えます。ある程度アスナが育てば再びNGO活動に戻ると思いますが

では、感想・誤字、脱字の指摘・などなどお待ちしております

**第6話「私は説明をされるようです」(前書き)**

少し更新遅れて申し訳ありません

理由としては今日はコスプレサミットを見に行っていたもので

楽しかったです、その後とらのあなを見て東方のDVDなんなを買  
ってきました

まだ見てないので見るのがたのしみです

では、本編をどうぞ

## 第6話「私は説明をされるようです」

「ふおっふおっふおっ、よく来てくれたのう」

?? ……何時見ても凄いですね、これ。世の科学者たちなんかは解剖したくてウズウズしてるんじゃないでしょうか。後頭部どれだけ長いんですか、ツツコんでもよろしくて？

?? 勘弁してあげてね、と高畑先生が仰るので自重しました。あとナチュラルに思考を読まれましたが「年長者の勘」だとか。私もそのうち出来るようになるのでしょうか。

「ああ申し遅れましたねすみません。私の名は神谷裕、初等部2年にて在籍。そこでクラス委員を務めさせております。お見知りおきを」

?? 私がそう言い頭を下げると学園長が嘆息したのが分かります。何事も第一印象が肝心ですから、こうして下手に出るのは大事なの

です。そしてゆくゆくは生徒会長となる野望を……

「ふむふむ、中々に壮大な夢じゃの。儂も応援するぞい」

「ありがとうございます。出来れば推薦状の1つでも認<sup>した</sup>めて戴ければ……と、また読心されました。やはり年を経ると心の内が読めるようになるのですか？」

?? 学園長がチラリと高畑先生の方を見やると、高畑先生は苦笑しました。何でしょう、私が何か失態を犯したのでしょうか。

「いやいや、君は何もしておらんよ。ただ少し儂と君との間に認識の違いがあつての。儂の読心は魔法じゃよ」

?? 魔法……

?? 先ほど高畑先生とエヴァンジェリン先輩との会話にちらほたと見受けられましたね。読心の魔法、と言うとサイコメトリーのよくなものでしょうか。

「まあ魔法と超能力という違いはあるがそうじゃな。そう思ってくれて構わんよ」

??それで、と居住まいを正して私を見据える学園長。それに対し私も背筋を伸ばしてキチンとした姿勢をします。

「神谷くん………実は、この世界にはまほ「ああ、まどろっこしい！」ふおっ!? ?エヴァよ! これからが儂の見せ場じゃぞ! ?良いところで遮るでない!」

??学園長が重要事項を口にしようとした瞬間、エヴァンジェリン先輩が大きな声で叫びだしました。情緒不安定でしょうか? ?思春期ですものね、あって当然です。

「まどろっこしいのだジジイ! ?よく聞けガキ。この世界には魔法と言うものがあってこの学園は魔法使いが支配する学園だ。そのジジイは関東最強と言われる魔法使いで、タカミチは20年前の大戦の英雄と呼ばれた『<sup>アラ・ルブラ</sup>紅き翼』と行動を共にしていた。そして私は600年の時を生きる真祖の吸血鬼で悪の大魔法使い! ?エヴァンジェリン・A・K・マクダウエルだ!」

??どうだ! ?と言わんばかりの顔で胸を張るエヴァンジェリン先輩。見ていて悲しくなりますが私は空気が読めるのでそんなこと微塵も表に出しません。何やら学園長が笑いを堪えてますが、まあ良いでしょう。

??ふむ、そして魔法使いの存在の肯定。及び、この学園は魔法使

いが支配しているという驚愕の事実ですか。さらには高畑先生と学園長はかなりの実力者だとか。

？

高畑先生の所属していた『紅き翼』が大戦の英雄との事ですが……  
…少なくとも私の知る限り、20年前に戦争などないはずですよ。

??そこから推測するに、私の知る歴史とは違う歴史をこの世界が歩んでいる。もしくは別の世界、それも魔法文明の発達した世界が存在するということですかね。

??……にしても最後まで感情籠り過ぎじゃないでしょうか。いくら自慢がしたいのであっても、しかも600年の時を生きるんですか。吸血鬼っていたんですね、外見はそうは見えませんが。

??吸血鬼は不老不死だと言いますし、やはり成長しないのですね。しかし私のイメージ崩れましたね。吸血鬼と言えば妖艶な美女、または妖しくも美しい長身の男だというイメージがありますから。

「……………まあ良いかの。それで、そのエヴァが言ったとおりじゃ。この世界には魔法があり、生徒や先生の中にも魔法使いがおる。この学園の警備のためにの。理由としては学園の中心にある世界樹の警備じゃな、あれは大変魔術的価値が高く狙う輩も多いのでな」

??ふむ。私の聞きたいことは粗方言われましたね。ならばこれ以上は私から聞くこともないでしょうか……ああでも先ほどの仮説などの真偽の判断は行いませんと。

「さて、それでは君のことを聞いてもいいかの？」

??しかし、私の質問は叶いませんでした。私の事ですか………面倒ですね。

第6話「私は説明をされるようです」（後書き）

学園長を皆さん「ぬらりひょん」だと言って始まる広げ方多いですよね

だからあえて言わずに普通に見ました。神谷くんは良い子なのでそんな失礼なことは考えませんw

そしてエヴァ様は自重しましょう。

あ、一応補足をば。前回の「暗器使い」の能力、元ネタは「めだかボックス」の「宗像形」というキャラクターのものです

ではでは

**第7話「私が説明させられるようです」(前書き)**

今回は何時もより短め、および駄文の可能性あり

読むならお気をつけを……………

## 第7話「私が説明させられるようです」

「どうしたのじゃ？　何か説明し辛いことか？」

「？？さて、困りましたね。私の説明……………一般人では納得しないでしょう。ああでもまだ魔法を知った人としての地位を確立させれば。」

「？？私の能力など、どのように説明しろと言うのでしょうか。「神に貰いました」なんて言った日には私の頭がお花畑だと疑われてしまいます……………そうしたらおそらく私はクラス委員から外され、生徒会長となる夢が水泡に帰してしまう……………？」

「？？それだけは……………それだけはダメです！　何とか誤魔化さなければ……………！」

「わ、私は……………」

?  
?  
?  
?  
?  
?  
?

「ふむふむ、生まれつき不思議なチカラがあったと。一種の才能かの？　それか家計に魔法関係の血筋でもおったのじゃろっな」

「あ、はい。良くは分かりませんが……何やら不思議なことが出来まして。便利くらいに思っていたのですが」

?? ……これは、嘘に入るんでしょうか。分からないのも生まれつきあるのも便利だと思ってるのも本当ですが。

「??とりあえずどのような事ができるか説明しておきました。『ラ  
ディカル・グッドスピード』やらの事ですね。学園長たちに見せた  
のですが、魔力は感じないとのこと。魔法じゃないんですか？  
?これ

「??それを見て高畑先生は驚き、エヴァンジェリン先輩はやたらと  
感心してましたね。何でしょう、また背筋に寒気が……………エヴァン  
ジェリン先輩? ?あなたが原因ですか? ?吸血鬼の能力か何か  
ですか?」

「さて、それではどうするか。君には戦えるだけの力があるの  
じゃが……………どうするのじゃ? ?良ければ儂らで鍛えてあげるが  
の」

「…………? ?なぜ、私が鍛える必要があるのですか? ?私は無関  
係ですし、これからも普通に過ごしたいのですが」

「最近警備も人手不足なんだよ。だから君が将来的に戦力になっ  
てくれるなら、麻帆良はより安全になるんだ。そしたら君の家族や  
友達なんか危険な目に会う可能性が減る。協力してもらう理由は  
それじゃダメかい?」

「??ああ……………なるほど。亜子たちを守るために繋がる訳ですか。そ  
れは確かに理由としては十分なのですがね、そちらの人手不足だと  
いうのが微妙に気に食わないのですけども。」

??まあ良いです。亜子たちの為ならば多少の事には目を瞑ります。なのでその旨を告げると学園長は嬉しそうになり……………これでポイント稼げましたでしょうか。

??とりあえず今日は帰った良いとの事でしたので、私は一礼して学園長室を後にします。そしてドアを閉め帰ろうとしたのですが、

「まあ待て。そう急いても良い事はないさ」

??何故あなたが？ エヴァンジェリン先輩。あまり喋らないと思っていたら既に外で待機してたのですか、気づきませんでした。これが吸血鬼の力ですかね？

「とりあえずお前に興味がある。どうせこの後はヒマだろう、私の家へ来い」

??有無を言わせず私を手を掴み引つ張って行くエヴァンジェリン先輩……………絵面的にどうなんでしょう。微笑ましい兄妹といったところでしょうか？ タイトルは「我儂な姉と振り回される弟」です。

??ああ亜子すみません。今日は遅くなりますのでご飯は結構です。

そんなメールを引き摺られながら亜子に送っているとログハウスに着いていました。…………早くないですか？

第7話「私が説明させられるようです」（後書き）

えー、竜華零さん、スモークさん、カレーパンさん。感想ありがとうございます  
うございます

あ、総合評価180pt。お気に入りが74件と良い事です  
このまま行けば月末にはピックアップの仲間入りじゃないでしょうか  
か 調子に乗るな

内容的に不安なところがあるので、何か思っ事がありましたらご指摘をどうぞ。

ではでは……………

第8話「私は殺されたのです」(前書き)

黒猫侍さん、竜華零さん、感想ありがとうございます

今回も短いですがね、では……

## 第8話「私は殺されそじです」

「ようこそ我が家へ。歓迎しようじゃないか、神谷裕」

??中へと放り投げられましたが、なんとか手をついて着地します。  
右手に負荷が……………痛いですね。

??と、言いますか。何ですかこの家？　?とてもファンシーなのですが。人形やレースや何やらが鎮座してますね、可愛いのですけど……………先輩？　?あなたは600年生きてるのではなかったのですか？

??アレですか。精神は肉体に引っ張られてるのですか。身体は大人、心は子供とでも言うのですか。いえ身体も子供なのですが。

「まあ何だ。とりあえず付いてこい、ゆっくりと話ができる場所へ行こうじゃないか」

??私の意見は無視ですか、そうですね。仕方ないですね、家主は向こうですし従うとしましょう。私は招かれておいて逆らうほどに

礼儀知らずではないと自負しています。 たぶん。

??そうして後を追っていくと地下への階段があり、そこを下ると物置のような場所に出ました。周りには人形などもあり、中央には大きなガラスの球が置いてあります。

「ゴ主人、ソイツハ誰ダ？ ？斬ッテイイノカ？」

「……………？ ？誰ですか？」

??不意に聞こえた声に周りを見ますが、私とエヴァンジェリン先輩以外は見当たりません。

「いきなり喋るなと言つに……………。 ああ今のはコイツだ」

??そうしてエヴァンジェリン先輩が壁際に置いてあつた人形の1つを持ってきます。人形？ ？

「ケケケ、オレハ『チャチャゼロ』ッテンダ。 ヨロシクナ」

？あ、魔法で喋ったりするのですか？ ？よくありますよね、魔法で喋るお人形。 あまり関係ないですが江戸川乱歩に「魔法人形」つ

て作品ありましたよね、少年探偵シリーズ。

「よろしくおねがいしますねチャチャゼロさん。出来れば斬るのは勘弁していただきたいですが」

「オツ、オドロカネエノカ。ゴ主人、コイツ何者ダ？　？何カ身体ニ武器ガメツチャ仕込マレテンゾ」

「？？おや気付きますか。魔法とか使えば分かるものなんでしょうか？　？……私にも使えるのですかね。やはり男児として魔法は憧れますし。」

「？？その後、エヴァンジェリン先輩がチャチャゼロさんに少し説明しました。途中で私の方へ放り投げられキャッチしたら、エヴァンジェリン先輩は部屋の中央にあるガラス球の前で何かしています。」

「？？するといきなり足元に奇妙な図形が現れて、まばゆい光が発せられ……気付けば何やら見知らぬ場所。橋のような建造物の上にはいました。」

「これは……？　？レポートですか？　？さすがまほ「違う。これは“別荘”の中に入っただけ。転移などと一緒にするな」おや、違うのですか」

「ああ違うな。ここは先ほどのガラス球の中だ。名を『ダイオラマ魔法球』、隔離した異界を内に閉じ込め行き来する物だ。中と外とで時間の流れに差があり、それによって品質が変わる………ちなみに私のこれは外との差は24倍。最高の物と言えるな」

「??ほお、なるほど。さらに外との差が24倍ですか。つまりここで24時間過ごしても、外では1時間しか経ってないか?」

「??そういうことだ、とエヴァンジェリン先輩に告げられる。凄いですねえ魔法、本気で私も使ってみたいものです。」

「さて、神谷。とりあえず――」

「??――私と殺ろうじゃないか?」

## 第8話「私は殺されそうです」（後書き）

そう言えば、日刊ランキングにこれが入っていて驚きましたw  
「え、マジ？」と思わず凝視してしまいました。本当でした  
やったぜベイバー、ひゃっほい

あとPVが3万超え、ユニークが6000超えたけど……早いですがな  
やはり毎日更新の力ですかね

ではでは

第9話「私は死闘を繰り広げるようです」(前書き)

竜華零さん、カレーパンさん、スモークさん、杉やんさん、なおぼ  
んさん。感想ありがとうございます

今回は一応戦闘ですが………過度な期待は禁物ですよ？

## 第9話「私は死闘を繰り広げるようです」

?? 避ける。

?? 避ける、避ける、避ける、避ける、避ける、避ける、  
避ける、避ける、避ける、避ける、避ける、避ける、避ける、  
避ける、避ける、避ける。

?? ただひたすらに避ける。エヴァンジェリン先輩が放ってくる魔法を一心に避け続ける。

?? 私に攻撃する手段はこの身に仕込んだ数多の暗器のみ、しかしエヴァンジェリン先輩も戦闘慣れしているのでしょう。バカ正直に攻撃したところで当たりはしません。

?? なので不意を突いて、まあ素人の私に分かる程度の不意なのですが。そこを突けば私にだって攻撃は出来ます。

?? …………… 何でしょうね、とても心が冷静です。吸血鬼は死なないと教えられたとはいえ、人を殺そうとしているのに罪悪感も気持ち悪さも何も感じません……………。

「むしろ殺したい、もつともつと殺したい。殺しても殺しても死な  
ないことに喜びすら感じている。これも屑神が何かしたのでしょ  
うか……………あまり、人として好ましくはありませんね。」

「??まあ、戦闘中にこんなことを考えれるくらいには冷静ですね私。  
今も飛んでくるものを避けてるところなのですが……………」。

「ふむ、やはりスピードは中々のものだ。練度が低いとはいえ、  
そこそこの速度はあるのだな……………面白い!」

「??そう言うと、先ほどまでであった魔法の弾幕が止まりました。これ  
は……………何か大きな攻撃が来ますね。」

「リック・ラク・ラ・ラック・ライラック。来れ氷精闇の精!」  
ウエニアント・スゼキ#アモ&ス・オブスターランテース

「??あれに対抗するには……………やはりアルターですね。即座に私は  
ラディカル・グッドスピードを私の体に対して使用し、纏わせる。」

「??薄紫色の流線形の鎧を全身に纏い、溜めの姿勢に入る。」

「クム・オブスクララレオトエテン&ヌター&ス  
闇を従え吹雪け常夜の氷雪」

「瞬殺のおおおお……………」

「ハッ！　？来るがいい、ガキ！」

「ファイナルブリットオオオオオオオ！！！！」

ニウイス・テンベスターズ・オブスクランス  
「闇の吹雪！！！！」

？？エヴァンジェリン先輩の放つ、正に名の通り闇の吹雪のような攻撃。

？？それに私は全身を竜巻のように回転させ、遠心力と瞬発力のスピードを利用した回し蹴りをする。

「うおおおおおおお！！！！」

「ぐうっ……………くくっ……………」

？？威力は拮抗。ならば私はさらに押し通すまで！　？ラディカル・グッドスピードはまだ速くなれる！

「うあああああああああ！！！！」

「な……………何！？　？くあっ！！」

？？……………勝ちました、かね。エヴァンジェリン先輩、森の方に吹き飛んでいきましたし。

？  
？  
？  
？  
？  
？  
？

「……………ふん。意外とやるようだな」

「いえいえ、私などまだまだ若輩の身ですよ。今回も運が味方して

くれただけでしょうし」

？

?? 実際、話を聞いてみるとエヴァンジェリン先輩は力を封印されているとか。この別荘では魔力が充満しているので、少しは使えるようになるらしいのですが。やはりそれに拮抗するのですから私などまだまだです。

??そして何やら私を鍛えるのはエヴァンジェリン先輩に決まったようです。やはり経験というものは大きく、今の状態でも高畑先生などよりは強いようです。

「勘違いするな。別にお前のためではなく、私のためだからな」

??.....これが、ツンデレというやつなのでしょうか？

第9話「私は死闘を繰り広げるようです」（後書き）

今回の戦闘に見覚えがある？ はて……なんのことでしょう（マテ

そもそも私の今までの地の文から、私の文才のなさは理解していた  
だけだと思うのです）え

そして神谷くん、一般人ですがツンデレくらい知ってます

「ツンデレなんて言葉、なんで知ってるの？」と聞かれても……

作者の周りの一般人も普通に知ってますし

感想をくれたら作者はあなたに忠誠を誓います（おい

第10話「私は ようです」(前書き)

オレンジさん、なおぼんさん、カレーパンさん。感想ありがとうございます  
ございます

今回のタイトルの意味？ 読めばわかります(キリッ

今回は1000文字いってないからチョー短いです

第10話「私は よじです」

「亜子」

「ん？ ？どしたん、ひろくん」

「すみませんがこれから私はしばらくの間、忙しくなります。ですから亜子の家で夕飯を戴く機会は減ると思います」

「ええよ、母さん達にはウチから言っとくわ」

「……………いいのですか？」

「ええよ。ひろくんが言うなら何か訳があるんやろし。ウチはひろくんを信じとるからな！」

「……………ありがとうございます」

?  
?  
?  
?  
?  
?  
?

「と、言うことがありまして」

「だからどうした……………」

??今はエヴァンジェリン先輩の別荘にてティータイム中です。何やらメイドさんのような方がいたのですが、なんと全て魔法で動く人形だとか。やはり魔法は凄いですね。膝の上に乗せているチャチャゼロさんも魔法なんですよね。

??そして私が先日のやり取りを思い出し、エヴァンジェリン先輩に亜子の素晴らしさを語ると何故だか呆れられました。チャチャゼロさんも心なしか呆れているような。

??何故でしょう? ?私は至極当たり前のことを言ったただけだと思つのですが……………やはり吸血鬼と人間では感性に差が「そんな訳あるかっ!」……………殴られました。

「……………エヴァンジェリン先輩は鬼です」

「そうだな、吸血『鬼』だからな」

「……………」

「な、なんだ? ?チャチャゼロまでそんな……………わ、私のせいじゃないぞ!?」

??いえいえ、貴方のせいですよエヴァンジェリン先輩。私は口に出しません。

??チャチャゼロさんは当然のように口に出してますが。この2人は主従のはずなのですが……………まあ、楽しそうなので良しとしましょう。おっと、そうでした。  
?

「エヴァンジェリン先輩」

「はあはあ……なんだ」

「いえ、実は……」

第10話「私は ようです」（後書き）

まあアンケートですね。

この後にエヴァ様と神谷くんたちで何かしたいんですけど……っ  
いでにアンケートしようと思いましたが

決してアイディアがないとかではなくて（本気で

エヴァ様と神谷くん で してほしい、などですね

最初は茶々丸を作らせようかと思いましたが、超がいなくね？  
と思ったのでやめました

チャチャゼロに武器を作るとか、別荘以外では使えませんが

エヴァ様を打倒するとか、たぶん無理ですが

学園長やタカミチの尾行を試みるとか、オチはわかりやすいですが

あと関係ないですが。アーウェルンクスをアリアドネーに行かせる  
って話を思いつきました。別に投稿しようかな？

ではでは

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4377v/>

---

最速な殺人鬼の旅人は堅物

2011年8月12日23時59分発行